

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年7月23日（水）

2 確認箇所

- ・覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）（図1）
- ・自由地盤系地震観測地点（北地点）（図1）

3 確認項目

- （1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況
- （2）自由地盤系地震観測地点（北地点）の状況

4 確認結果の概要

（1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況

東京電力は、令和10年度中の全ての固体廃棄物（水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く）の屋外一時保管解消に向け、覆土式一時保管施設※（瓦礫類一時保管エリアL）に一時保管された瓦礫類を取り出し、金属容器へ収納した後、固体廃棄物貯蔵庫での保管を計画している。

当該エリア内には、第1槽から第4槽までの計4つの一時保管槽が設置されているが、第4槽では遮水シート、覆土、大型土のう等の撤去が完了し、それら下部に保管されている瓦礫類の撤去が開始されたため、当該エリアの状況を継続的に確認している。（前回確認：[令和7年7月2日](#)）

- ・新たに設置されたコンテナハウス内にダストモニタが置かれ、第4槽を覆うテント内各所のダスト濃度を測定しており、各エリアともその指示値に異常は見られなかった。（写真1）
- ・第4槽近傍の空間線量率は0.6 $\mu\text{Sv/h}$ であった。（写真2）
- ・線量測定用のサーベイメータを携行し、作業が行われているテント周辺の各ポイントで計測を実施。空間線量率は、1.06～7.78 $\mu\text{Sv/h}$ の範囲であった。（写真3）
- ・第4槽を覆うテントに破損等の異常はなかった。また、第1槽から第3槽について目視で確認した範囲では、廃棄物の飛散や流出等の異常はなかった。（写真4）

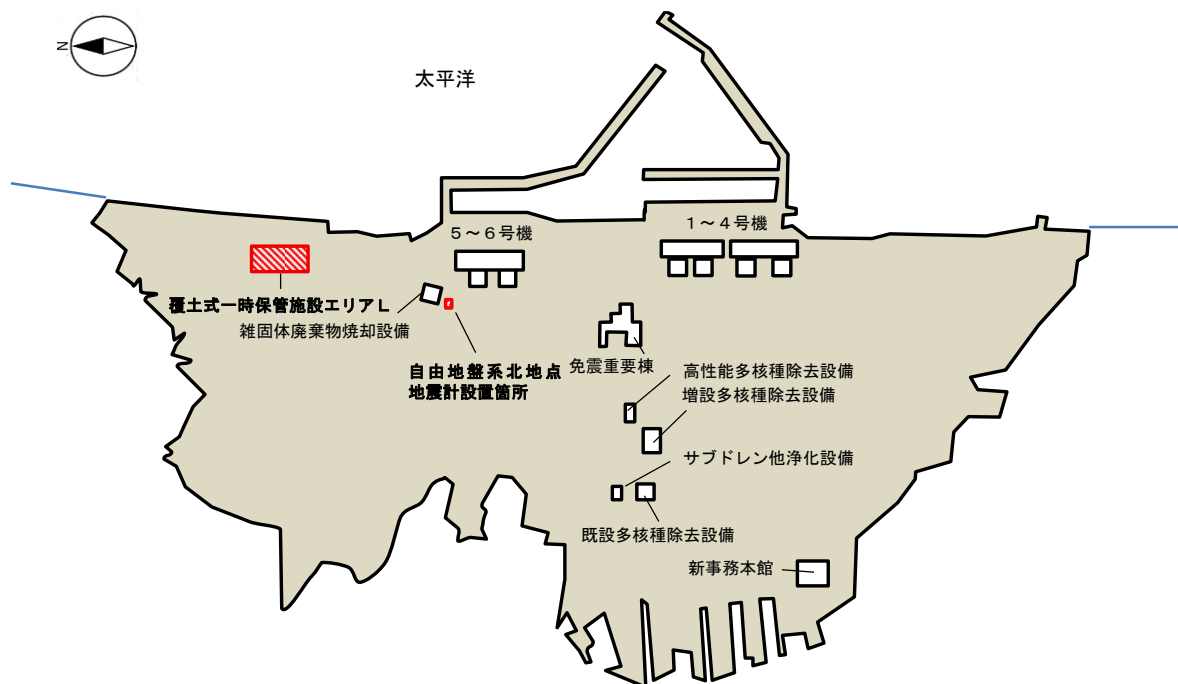
※ 覆土式一時保管施設

高線量（～30 mSv/h ）の金属やコンクリート等の瓦礫類に覆土遮へいを施した一時保管エリア。

(2) 自由地盤系地震観測地点（北地点）の状況

福島第一原子力発電所における地震観測地点のうち、自由地盤系の2地点（北地点及び南地点）は、大規模な地震が発生した際、地震記録を基準地震動や過去の地震記録との比較等をするために利用されている。これらの設備は長期的に観測を継続していくための信頼性向上対策として、全面的な設備更新計画が策定されているが、今回は、令和4年度に更新工事が行われた北地点の状況を確認した。（前回確認日：令和5年4月18日）

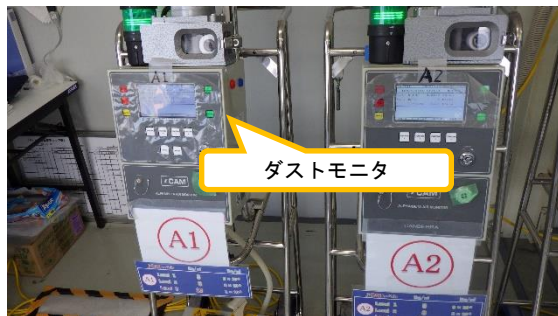
- ・地震計の検出器が設置されている場所の地盤面には防草シートが敷設され、周囲にはフェンスが設置されていた。（写真5）
- ・なお、北地点には、5箇所（地表（GN1）、GL-5m（GN2）、GL-100m（GN3）、GL-200m（GN4）、GL-300m（GN5））の観測点があるが、令和4年度中に全ての観測点の検出器が更新されている。（写真6）
- ・東京電力によると北地点においては、更新した地震計での観測を令和5年3月上旬から開始している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
コンテナハウスの設置状況
※コンテナハウス内にダストモニタが設置されている。



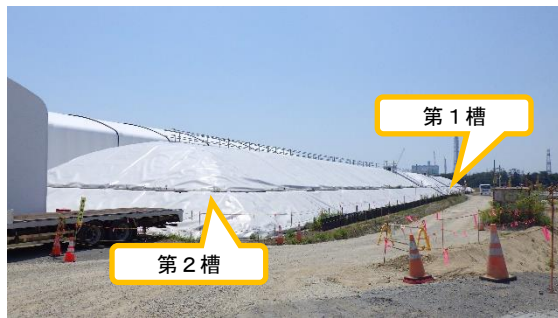
(写真1-2)
ダストモニタの設置状況
(写真はA1, A2、この他にB, C, Dもある。)



(写真2)
線量表示器の設置状況
(確認時の指示値 : 0.6 μ Sv/h)



(写真3)
周辺の線量率の測定結果及び工事に係る安全掲示板の状況
(作業安全注意の他、警報レベル、熱中症対策等を掲示中)
(サーベイメータを携行、各ポイントにおいて計測を実施。)



(写真4)
テントで覆われた第4槽に隣接する第1槽及び第2槽の状況



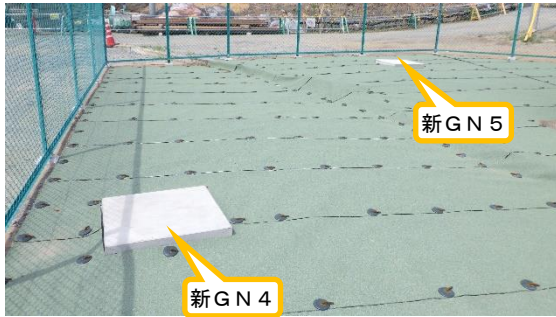
(写真5-1)
自由地盤系地震観測地点（北地点）の概観（北西側から撮影）



(写真5-2)
自由地盤系地震観測地点（北地点）の状況（南東側から撮影）



(写真6-1)
自由地盤系地震観測地点（北地点）の観測点の状況①（北西側から撮影
旧GN5及び新GN5は、令和4年度の検出器更新以前と以後の位置を示す）



(写真6－2)

自由地盤系地震観測地点（北地点）
の観測点の状況②（東側から撮影）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。